

第 1 部

リユース食器を知ろう

1. イベントからごみを減らそう！

▽循環型社会形成に向けて～「もったいない」を思いだそう！～

私たちの暮らしは便利な使い捨て商品に囲まれています。こうした便利さの反面で、ごみ処理など負の側面が問題化しています。環境問題の深刻化に対し、暮らしの中から環境問題に取り組もうとする動きが出てきました。ケニア出身のノーベル平和賞受賞者ワンガリ・マータイ氏が提唱した「もったいない (MOTTAINAI) 運動」が広がりを見せたり、3R (スリーアール) 推進の動きが各地で活発化しています。なお、「3R」とはごみを減らし循環型社会を構築するためのキーワードで、①Reduce (リデュース、ごみの量を減らす) ②Reuse (リユース、繰り返し使う) ③Recycle (リサイクル、資源として活かす) の頭文字が3つの「R」であることに由来しています。

生活の中の様々な場面で循環型社会に向けた動きが始まっています。リユース食器の利用もこうした先駆的な取り組みの一つです。

▽リユース食器を用いてイベントからごみを減らそう

イベントの大小を問わず、使用済みの使い捨て食器が山積みになっている様子に抵抗感を覚える人も多いのではないのでしょうか。

こうした現状を打破するために、新潟のスタジアム (収容人数4万2千3百人) では市民・行政・事業者が立ち上がりました。その中から「4万人のごみゼロプロジェクト」が生まれ、スタジアムへの持ち込みごみを減らすためキャンペーンが実施されました (「ゴミオモチカエリプロジェクト」)。このプロジェクトの一環として導入されたのがリユースカップです。繰り返し使えるリユースカップを導入することで、紙カップの使用量・廃棄量を減らすことを目的としました。

イベントからごみを減らす方法は様々です。その中で、リユース食器の利用は有効な選択肢です。このマニュアルを片手に、身近なところからリユース食器の利用を始めてみませんか。

イベントからごみを減らす方法

- ごみの持ち帰りを呼びかける
- 家庭で使っているカップや箸、食器の持参を呼びかける
→マイカップやマイ箸など
- 使い捨て容器の表面に薄いフィルムを貼って容器本体をリサイクル
→エコトレイの利用
- 分別回収・リサイクルを行う
- リユース食器を利用する

2. リユース食器の世界

▽広まるリユースの輪

リユース食器の世界にようこそ。全国各地でリユース食器を取り入れる動きが盛んになっていることをご存じですか？サッカースタジアムや野外の音楽イベント、学園祭といった大規模なイベントで、また、地域や幼稚園でのおまつりといった小規模なイベントでリユース食器は使われています。

このように、リユース食器は社会に浸透しつつあり、この取り組みを後押しする動きも出てきています。リユース食器の普及や環境負荷を減らす循環型社会の形成を目指すNGOやNPOが各地で活躍しています。また、地方自治体によっては、食器を洗浄する専用の車を持っていたり、自治体が関わる行事はリユース食器を利用するという方向性を打ち出したりするなど、リユース食器を支援する輪が広がっています。



東北電力ビックスワンススタジアム（新潟）でのリユースカップ利用風景